



## 平成 25 年 9 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 25 年 5 月 14 日

上場会社名 株式会社ユーグレナ 上場取引所 東  
 コード番号 2931 URL <http://www.euglena.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 出雲 充  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営戦略部長 (氏名) 永田 暁彦 (TEL) 03(5800)4907  
 四半期報告書提出予定日 平成 25 年 5 月 14 日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成 25 年 9 月期第 2 四半期の連結業績 (平成 24 年 10 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25 年 9 月期第 2 四半期	826	—	43	—	62	—	362	—
24 年 9 月期第 2 四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 25 年 9 月期第 2 四半期 362 百万円 ( —%) 24 年 9 月期第 2 四半期 ー百万円 ( —%)

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25 年 9 月期第 2 四半期	29.35	26.90
24 年 9 月期第 2 四半期	—	—

※1. 平成 25 年 9 月期第 2 四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成 24 年 9 月期第 2 四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 当社は、平成 25 年 4 月 1 日付で株式 1 株につき 5 株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して 1 株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25 年 9 月期第 2 四半期	3,142	2,438	77.6
24 年 9 月期	—	—	—

(参考) 自己資本 25 年 9 月期第 2 四半期 2,438 百万円 24 年 9 月期 ー百万円

※平成 25 年 9 月期第 2 四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成 24 年 9 月期の数値は記載しておりません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24 年 9 月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25 年 9 月期	—	0.00	—	—	—
25 年 9 月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成 25 年 9 月期の連結業績予想 (平成 24 年 10 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,055	—	134	—	225	—	445	—	34.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 1社 (社名) 八重山殖産株式会社
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年9月期2Q	13,677,500株	24年9月期	10,777,500株
② 期末自己株式数	25年9月期2Q	一株	24年9月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年9月期2Q	12,346,181株	24年9月期2Q	一株

※当社は、平成25年4月1日付で株式1株につき5株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、平成25年5月15日に機関投資家向け説明会を開催する予定です。

この説明会で配布する資料については、本日5月14日T D n e t 開示後、当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 四半期連結損益計算書 第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書 第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(6) セグメント情報等 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。なお、当社は、当第2四半期連結累計期間から四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行っておりません。また、平成25年3月27日付で八重山殖産株式会社株式を追加取得し子会社化しておりますが、第2四半期連結累計期間の末日をみなし取得日として四半期連結財務諸表を作成しているため、八重山殖産株式会社の平成24年10月1日から平成25年3月31日までの業績は含まれておりません。

#### 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成24年10月1日～平成25年3月31日）におけるわが国の経済は、欧州の債務問題等取り巻く環境は依然として不安定な状況にあるものの、新政権の経済政策への期待から為替の円安基調と株価回復の傾向が続き、景気回復の兆しが見えてまいりました。

当社主力事業であるヘルスケア業界は、健康と美容に対するニーズに底堅いものがあり、高齢化に伴う医療費負担の増加を背景に「セルフメディケーション」に対する意識の高まりや、美容・アンチエイジング素材やエイジングケア素材の台頭があり、当面堅調な需要が期待できる状況にあります。

このような事業環境のもと、当社では、食品、化粧品素材としての「ユーグレナ（和名：ミドリムシ）」の知名度の向上に努め、ヘルスケア製品の販売を積極的に推進するとともに、「ユーグレナ」を利用したバイオ燃料の研究開発活動を継続しました。

特に、当社は主力の販売ルートであるOEM供給に加え、自社製品の販売の強化に着手しております。当第2四半期連結累計期間においてはこの方針をより強化し、先行投資として広告宣伝費を中心とした販売費が増加しておりますが、売上及び売上総利益は堅調に推移しております。また、研究開発をより加速するために当第2四半期連結累計期間において新たな研究所建設及び研究設備の増設等を行い研究開発費が増加しております。

セグメント別に見ると、ヘルスケア事業においては、自社ブランド「ユーグレナ・ファーム」の知名度の向上のための広告宣伝活動及び自社製品の販売体制の強化に努めてまいりました。当第2四半期連結累計期間における売上高は822,118千円、セグメント利益は220,939千円となりました。エネルギー・環境事業においては、独立行政法人科学技術振興機構が募集するチーム研究（CREST）に研究課題「形質転換ユーグレナによるバイオ燃料生産基盤技術の開発」が採択され、委託研究契約を締結いたしました。また、生産技術の向上や品質の改良、安定化を図るため、平成24年10月に沖縄県石垣市に生産技術研究所を開設いたしました。受託研究による売上を計上しておりますが、ユーグレナによるバイオ燃料開発などのための研究開発費の計上等により、当第2四半期連結累計期間は、売上高は4,646千円、セグメント損失53,912千円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は826,765千円、営業利益は43,483千円、経常利益は62,893千円となり、八重山殖産株式会社の子会社化にあたり、負ののれん発生益322,212千円を特別利益に計上し、四半期純利益は362,417千円となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

八重山殖産株式会社を子会社化したことに伴い、当第2四半期連結会計期間末の総資産は3,142,884千円、純資産は、2,438,095千円となりました。この結果、自己資本比率は77.6%となりました。

#### (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、1,749,636千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### ・営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、負ののれん発生益322,212千円の計上及び法人税等の支払いによる支出58,444千円等があったものの、税金等調整前四半期純利益385,105千円の計上等により、19,896千円の収入となりました。

#### ・投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出31,951千円、子会社株式の取得による支出20,435千円等により、58,978千円の支出となりました。

#### ・財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、東京証券取引所マザーズ上場に伴う株式の発行による収入により、896,548千円の収入となりました。

### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想に関する事項については、本日（平成25年5月14日）公表の「連結決算開始に伴う連結業績予想の公表及び個別業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社は、平成25年3月27日付で、八重山殖産株式会社の株式の追加取得により子会社化いたしました。これにより当社グループは当社及び子会社1社により構成されることとなりました。

当社は、八重山殖産株式会社を子会社化することにより以下の効果を見込んでおります。

- ・当社の研究成果、培養技術をより積極的に生産現場に投入することによる、ユーグレナの生産コスト低減、増産の効率化の実現。
- ・増加しているユーグレナの需要に伴い発生する設備投資などの資金ニーズに対し、柔軟に当社が資金提供できる体制の実現。
- ・八重山殖産株式会社の持つ設備、ノウハウや遊休資産を、バイオジェット燃料を中心とした研究課題に活用することによる研究開発の加速。
- ・他地域での新たな生産拠点の建設時における、八重山殖産株式会社が有するノウハウの活用。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

当社グループは、法人税法の改正に伴い、当第2四半期連結累計期間より、平成24年10月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間  
(平成25年3月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,749,636
受取手形及び売掛金	255,815
商品及び製品	177,509
原材料及び貯蔵品	136,213
繰延税金資産	8,499
その他	32,594
貸倒引当金	△5,604
流動資産合計	2,354,663
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物	132,980
機械装置及び運搬具	61,393
工具、器具及び備品	24,048
土地	578,510
建設仮勘定	3,984
減価償却累計額	△71,910
有形固定資産合計	729,005
無形固定資産	
その他	8,876
無形固定資産合計	8,876
投資その他の資産	
差入保証金	43,322
繰延税金資産	6,816
その他	200
投資その他の資産合計	50,338
固定資産合計	788,220
資産合計	3,142,884

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間  
(平成25年3月31日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	91,530
1年内返済予定の長期借入金	22,272
未払金	99,272
未払法人税等	43,533
賞与引当金	3,501
その他	48,004
流動負債合計	308,115
固定負債	
長期借入金	209,632
退職給付引当金	13,056
資産除去債務	8,896
繰延税金負債	162,868
その他	2,219
固定負債合計	396,673
負債合計	704,788
純資産の部	
株主資本	
資本金	914,210
資本剰余金	814,210
利益剰余金	709,675
株主資本合計	2,438,095
純資産合計	2,438,095
負債純資産合計	3,142,884

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)
売上高	826,765
売上原価	365,036
売上総利益	461,729
販売費及び一般管理費	418,245
営業利益	43,483
営業外収益	
受取利息	536
助成金収入	24,690
その他	5,048
営業外収益合計	30,275
営業外費用	
支払利息	212
株式交付費	10,571
その他	82
営業外費用合計	10,866
経常利益	62,893
特別利益	
負ののれん発生益	322,212
特別利益合計	322,212
税金等調整前四半期純利益	385,105
法人税、住民税及び事業税	22,624
法人税等調整額	63
法人税等合計	22,688
少数株主損益調整前四半期純利益	362,417
少数株主利益	—
四半期純利益	362,417



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	362,417
四半期包括利益	362,417
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	362,417
少数株主に係る四半期包括利益	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 平成24年10月1日  
至 平成25年3月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	385,105
減価償却費	11,323
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	745
受取利息	△536
負ののれん発生益	△322,212
支払利息	212
株式交付費	10,571
売上債権の増減額 (△は増加)	△30,614
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△24,798
仕入債務の増減額 (△は減少)	30,400
未払金の増減額 (△は減少)	24,760
その他	△6,939
小計	78,016
利息の受取額	536
利息の支払額	△212
法人税等の支払額	△58,444
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,896
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△31,951
無形固定資産の取得による支出	△4,496
差入保証金の差入による支出	△2,096
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△20,435
投資活動によるキャッシュ・フロー	△58,978
財務活動によるキャッシュ・フロー	
株式の発行による収入	896,548
財務活動によるキャッシュ・フロー	896,548
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	857,466
現金及び現金同等物の期首残高	892,169
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,749,636

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成25年1月21日を払込期日とする第三者割当による新株発行により、資本金、資本準備金がそれぞれ62,560千円増加しております。この結果、当第2四半期会計期間末において資本金が914,210千円、資本準備金が814,210千円となっております。

(6) セグメント情報等

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間（自平成24年10月1日 至 平成25年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	ヘルスケア事業	エネルギー ・環境事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	822,118	4,646	826,765	—	826,765
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	822,118	4,646	826,765	—	826,765
セグメント利益又は損失 (△)	220,939	△53,912	167,026	△123,543	43,483

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△123,543千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントののれん等に関する情報

(重要な負ののれんの発生益)

「ヘルスケア事業」セグメントにおいて、八重山殖産株式会社を平成25年3月27日付で子会社化いたしました。当該事象による負ののれん発生益322,212千円を特別利益に計上しております。